

令和7年度 特定非営利活動法人 Unity
「居場所評価アンケート」の結果について

特定非営利活動法人 Unity
理事長 目崎 敦也

当法人では、令和8年2月に法人評価アンケートを実施しました。実施にあたり多くの子ども及び保護者の皆様から、ご協力頂きましたこと、誠にありがとうございました。

この度のアンケートでは、令和7年のふりかえりを兼ねてこどもの居場所提供事業の一つである無料学習塾あじあーと鶴橋本校について評価をしていただきました。

これらの評価を真摯に受け止め、今後の子どもの学習支援、居場所の提供の改善に繋げ、より良い居場所を創り上げていくことに努めていきたいと考えております。今後も保護者の皆様に一層のご支援をお願いいたします。

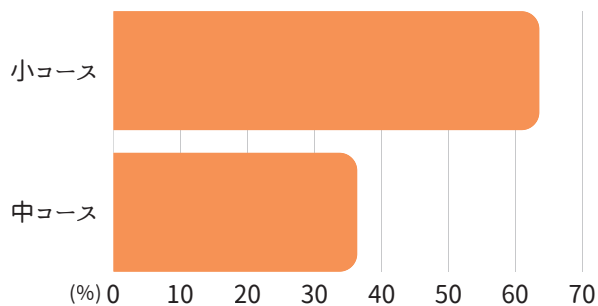
○掲載内容

- ①保護者アンケート
- ②子どもアンケート
- ③ご意見・ご要望の集約
- ④令和7年度の法人評価アンケートの結果を受けて

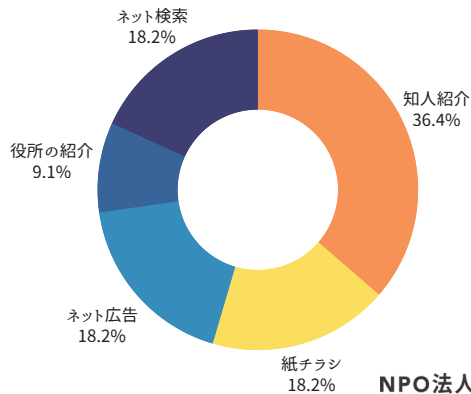
第3回鶴橋本校利用者アンケート

実施日 2026年2月 / 回答率：全体約73.3%

回答割合（小学生コース/中学生コース）



居場所を知ったきっかけ

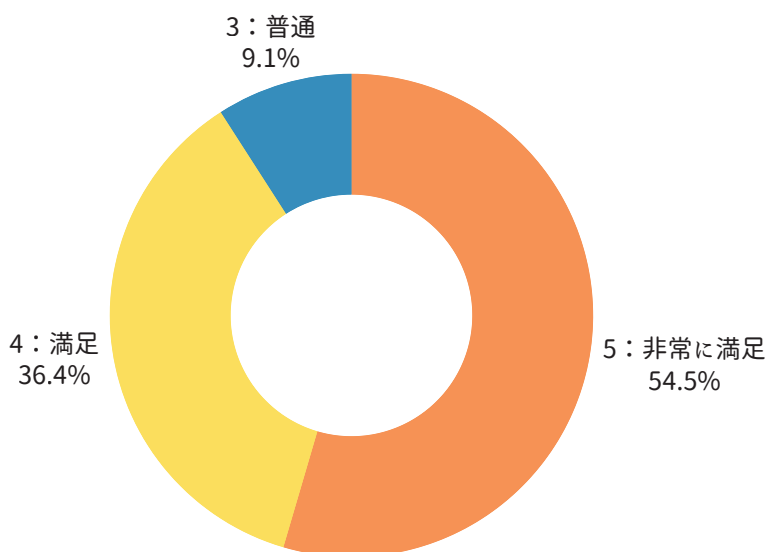


NPO法人
Unity

当法人の活動理念を5段階で評価 -

保護者回答

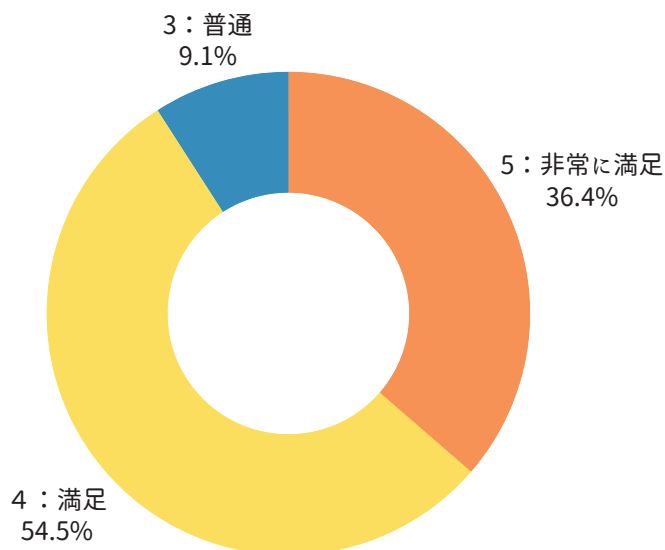
1:不満 2:やや不満 3:普通 4:満足 5:非常に満足



NPO法人
Unity

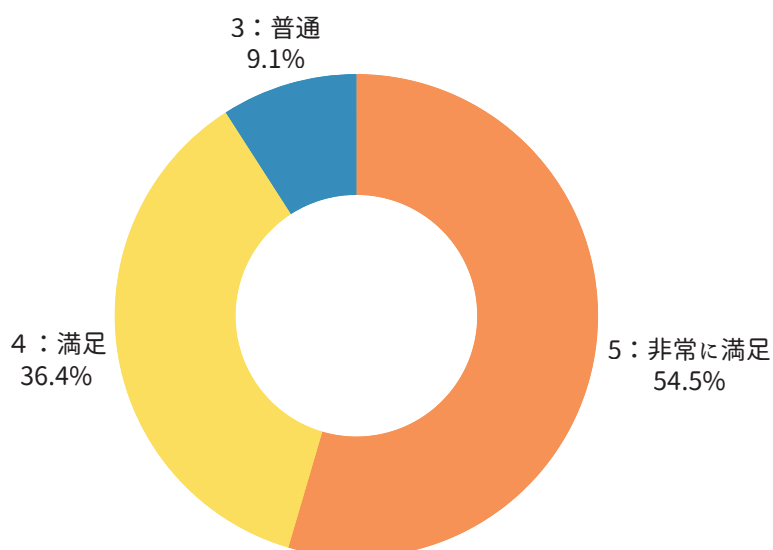
設問① - 講師の指導力を 5 段階で評価 -

1:不満 2:やや不満 3:普通 4:満足 5:非常に満足



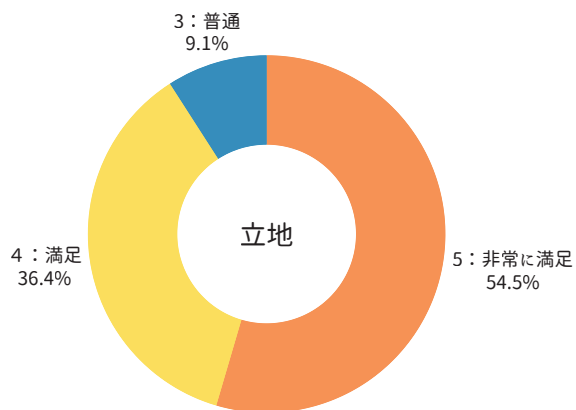
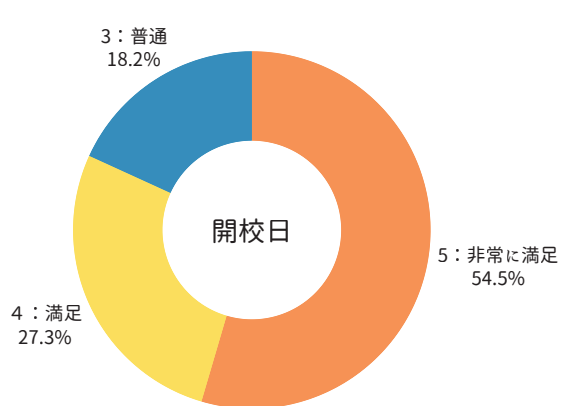
設問② - 子どもへの接し方を 5 段階で評価 -

1:不満 2:やや不満 3:普通 4:満足 5:非常に満足



設問③ - 開校日と立地を5段階で評価 -

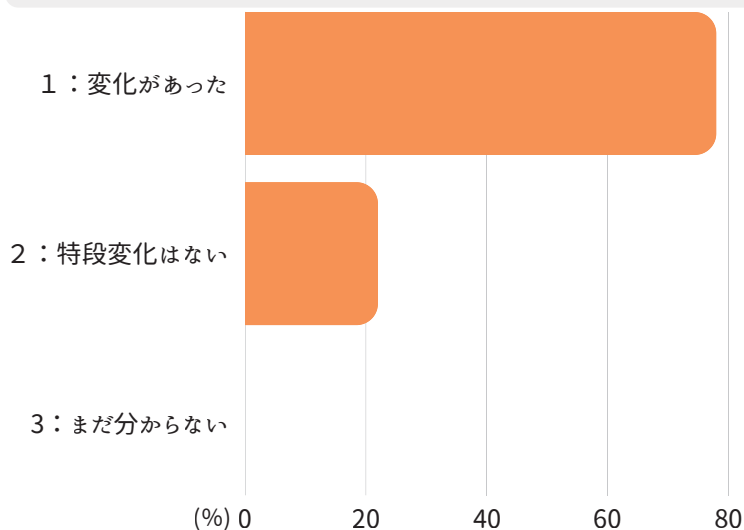
1:不満 2:やや不満 3:常足 4:満足 5:非常に満足



設問④-1 - 子どもが居場所に通い始めて、

何か変化があったか。 -

1:変化があった 2:特段変化はない 3:まだ分からない



設問④-2 - 具体的にどんな変化があったか。 -

保護者回答

(自由記述)

学習的側面

- ・ 自習する習慣が身についた
- ・ 勉強への抵抗がなくなった
- ・ 楽しそうに勉強していた
- ・ 学習に対して前向きになりました
- ・ (講師の)説明がわかりやすいから、一人で学習を進めることができている
- ・ 質問したら、わかる範囲内で何でも優しく教えてくれているみたいで、非常に満足しています
- ・ 特性のある子ですが個別に必要な対応方法を伝えると柔軟にご対応いただけてとても助かります
- ・ イベント活動もすごく楽しかったと言っていました

NPO法人
Unity

設問④-2 - 具体的にどんな変化があったか。 -

保護者回答

(自由記述)

居場所的側面

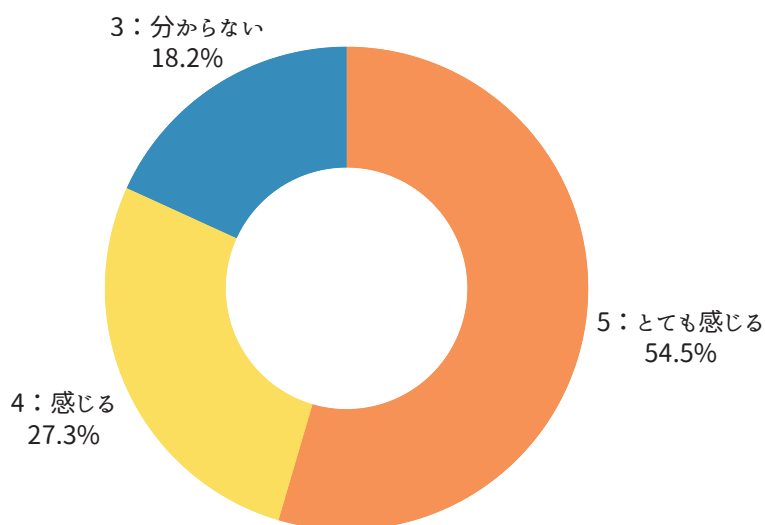
- ・ 質問することが苦手だったのが積極的になった
- ・ 頼れる場所が出来て嬉しそうだった
- ・ 家庭、学校、私塾とは別の場所、人との関わりにより、新たな視点を持つことが出来た
- ・ (講師と)色々話して接して貰えてるので高校や大学はこうなんだってなど将来について想像ができて良い影響を受けている
- ・ 地元に知人や居場所が少ないため、とても貴重な機会をいただいています
- ・ 勉強だけでなく悩みや気持ちに寄り添って下さって感謝しています
- ・ 人に干渉されるを避けており、乗り気ではなかったのに今は自ら行きたがっている
- ・ 親ともあまり話そうとしなかったが、この居場所がきっかけに対話が増えた気がする
- ・ 「楽しい」らしいです。ありがとうございます。

NPO法人
Unity

設問⑤ - ここがあなたの居場所だと感じますか？ -

子ども回答

1:とても感じない 2:感じない 3:分からない 4:感じる 5:とても感じる



NPO法人
Unity

設問⑥ - ご意見 / ご要望等 -

子ども回答

保護者回答

(今は中学3年生ですが) 高校生になっても通いたい。

NPO法人
Unity

令和7年度の法人評価アンケートの結果を受けて

当アンケートは、学習支援を通して、課題を抱える子どもたちが未来を明るく、そして力強くこの社会を生き抜いていくために必要な能力を身につける居場所として機能しているのかを間接的、かつ客観的に判断するために実施をしております。ここでは子どもたちに学習支援という形で基礎学力の定着を目指し、同時にサードプレイス（第3の居場所）となるような居場所の提供をしております。

課題を抱える子どもたちにとって基礎学力の定着が進んでいるか、ここが自分の居場所となっているかについては、活動を通して子どもたちに変化があったのかをもって判断すべきだと考えております。

設問④-1「子どもが居場所に通い始めて、何か変化があったか」という問いに対して約80%が「変化があった」と回答し、その変化を具体的に記述していただいた。数多くの具体的変化を学習的側面と居場所的側面に分類し、各々列挙することで、当法人の活動理念である『学習支援を通して居場所の提供、子どもの明るい未来を作りたい』に非常に近い具体的変化があったと捉えることができる。

また、設問⑤の「ここが自分の居場所かが分からない」との回答が令和5年度実施時に約30%を占めていたところ、今年度令和7年では約18%まで数字を下げたことは、中期的計画で個々の子どもにとって真の居場所となるよう組織改善を図ってきた努力の成果が数字として現れたと考えております。

一方で、講師の指導力の評価については「非常に満足」のポイントが令和5年度実施に比して約4%減となったことを鑑み、定期的な講師の全体研修や日々子どもへの学習支援・子どもへの寄り添い方の質的向上、講師の採用基準の見直しを検討する余地があると考えております。

また、アンケート内の「高校生になっても通いたい」という要望については、当法人が義務教育の対象である小中学生を受け入れ、彼らを下支えするのが高校生と大学生である構造をとっている以上、高校生はサポートをする側で参加をすることになるのが原則ではありますが、本人が望む場合には 毎週日曜日以外の別日で実施するかを前向きに検討いたします。

尚、子ども及び保護者から頂いたご意見等は、真摯に受けとめ検討をさせて頂いたのち次年度に生かしていきたいと思っております。